



Journal of Textile Engineering

published by The Textile Machinery Society of Japan

はじめに

Journal of Textile Engineering (JTE) は日本繊維機械学会が発行する公式の査読付き学術誌です。JTE が対象とするのは、繊維と繊維機械の科学と工学、テキスタイルの科学と工学、アパレル・被服心理・ファッション、繊維強化複合材料、バーチャルテキスタイル・スマートテキスタイル、ナノファイバー、産業用資材と不織布、染色と機能加工といった、繊維に関する多方面で幅広い分野です。JTE はこれらの分野の、日本語または英語で書かれた高品質の論文を隔月で刊行しています。また、これらの分野に限らず、学際的な研究の原稿も歓迎します。掲載論文の種類は、一般論文 (Original paper)、短報 (Short paper)、技術報告 (Technical paper) ですが、これらのほかに招待記事 (invited article) も掲載します。大学、国公立の試験場、企業の研究所、科学者／エンジニアからの投稿を歓迎します。

CiteScore

2022: 0.6 © Scopus

対象とする読者

下記の事項に関心のある技術者：テキスタイル、繊維機械、繊維、繊維や糸の製造工程、アパレル、被服、被服心理、繊維を基盤とした複合材料、ナノファイバー、不織布、染色、繊維の機能加工

編集委員会

委員長

保田 和則 愛媛大学 工学部

副委員長

小柴 孝 奈良工業高等専門学校

向井 康人 名古屋大学 工学部

編集委員

上田 博之 大阪信愛学院大学 看護学部
植松 英之 福井大学 工学部
金田 直人 福井工業高等専門学校
喜成 年泰 金沢大学 工学部
廣垣 和正 福井大学 工学部
堀場 洋輔 信州大学 繊維学部
松岡 敏生 三重県工業研究所
丸 弘樹 信州大学 繊維学部
安永 秀計 京都工芸繊維大学 繊維学系
山下 義裕 福井大学 繊維・マテリアル研究センター
山本 貴則 大阪産業技術研究所
山本 剛宏 大阪電気通信大学 工学部

International Advisory Board

Rabisankar Chattopadhyay, Indian Institute of Technology, India

Muthu Govindaraj, Philadelphia University, USA

George Havenith, Loughborough University, UK

Seung Jin Kim, Yeungnam University, Korea

Menghe Miao, CSIRO, Manufacturing Flagship, Australia

Gail Taylor, Formerly of The Hong Kong Polytechnic University, Hong Kong

投稿規定

原稿の種類

投稿原稿の種類には一般論文・短報・技術報告・招待記事があります。原稿を執筆する際に、適切な原稿タイプを選択してください。

一般論文 (Original paper) :

繊維または繊維機械に関連する科学・工学に関して独創性・新規性のある未刊行の論文であり、信頼性が高く新しい価値ある結果を得ているもの。原稿の長さは、原則として組版後8頁以内とする。

短報 (Short paper) :

一般論文と同様に繊維または繊維機械に関連する科学・工学に関して未刊行の論文であり、萌芽的、断片的研究ではあるが信頼性が高く価値ある結果を得ているもの。原稿の長さは、原則として組版後4頁以内とする。

技術報告 (Technical paper) :

繊維または繊維機械に関連する技術に関する未刊行の報告で、繊維技術と繊維産業の発展に貢献する技術を公表することでこの分野の発展に寄与することを重視したもの。信頼性が高く新しい価値ある結果を得ていることが必要である。単に既存の技術の紹介や特許の解説ではなく、従来の技術に新しい学術的視点を加えることでさらに発展させた技術の開発につながる内容であることが求められる。原稿の長さは、原則として組版後6頁以内とする。

招待記事 (Invited article) :

編集委員会が著者を選定し、招待したレビュー、記事などを掲載する。

投稿の準備

投稿資格

投稿に必要な資格はありません。どなたでも投稿できます。ただし掲載料 (article processing charge, APC) として、本学会の会員 (法人会員の社員など構成員も含む) には会員価格を、非会員には非会員価格を適用します。著者の中にひとりでも会員がいる場合は会員価格を適用します。いずれの価格を適用するかは、原稿が採択 (accept) されたあと、出版される時点で編集委員会が判断します。

投稿の前提

原稿が投稿されたとき、編集委員会は、著者が以下の点を了承しているものとみなします。

- (1) 原稿に書かれた同一の内容がこれまでに出版されていないこと。
- (2) 他のいかなる場所や媒体での出版も検討していないこと。ただし、国内外での会議・講演会が発行する概要集 (abstract) や短い前刷り集、刊行済みの講義録、学位論文の形で公開されている場合を除く。
- (3) すべての著者によって出版が承認されていること。研究活動が行われた大学・企業等の組織によっても暗黙的または明示的に出版が承認されていること。
- (4) 原稿が採択された場合、日本語・英語や他の言語でも、いかなる場所・媒体においても同じ形で出版しないこと (電子的な出版も含む.)。
- (5) 原稿のオリジナリティーを確認するため、オリジナリティー検出サービス Similarity Check による類似性チェックによって原稿をチェックする可能性があること。

投稿方法

原稿と著作権譲渡承諾書を下記の投稿用ウェブサイトからアップロードしてください。

<https://tmsj.or.jp/tmsj-form-mail/jte-entry/>

原稿の見本、著作権譲渡承諾書は本稿の最後に付いています。学会の下記のウェブサイトからも取得できます。

<https://tmsj.or.jp/jte/> または <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jte-char/ja>

投稿から1週間以内に、原稿を受け付けた旨の返事が編集委員長から届かない場合は、下記のメールアドレスにその旨を問い合わせてください。

[tmsj-submission\[@\]tmsj.or.jp](mailto:tmsj-submission[@]tmsj.or.jp)

編集委員会から著者への連絡はすべて電子メールで行います。

提出チェックリスト

このリストを使用して、原稿をジャーナルに投稿する前に最終チェックを行うことができます。詳細については、この投稿案内の関連する項をご覧ください。著者のうち1名が責任著者（corresponding author）となっていることを確認して下さい。

1. 投稿時に必要な下記のファイルがそろっていますか？
 - 原稿
 - 著作権譲渡承諾書（本執筆要項の最後に付録として付いています。）

2. 下記の事項がそろっていますか？
 - 概要（abstract）
 - キーワード
 - すべての図（図説明も）
 - すべての表（表説明も）

3. その他の考慮事項
 - 原稿に誤記・誤植はありませんか？
 - 参考文献リストに記載されているすべての参考文献を本文中で引用していますか？
 - 逆に、本文中で引用している参考文献は参考文献リストにすべてありますか？
 - 著作権で保護されている素材の使用許可を得ていますか？
 - 利益相反がある場合、その旨を本文中に記載していますか？

著者情報の変更

著者は、原稿を提出する前に著者名の一覧と順序を注意深く検討したうえで、著者名の最も適切な一覧を投稿時に提出します。著者名の一覧に対して著者名を追加したり削除したり順序を変更したりすることは、原稿が採択される前で、かつ編集委員会によって承認された場合にのみ受け付けます。著者を追加／削除／順序変更したい場合、まずは追加／削除／順序変更される著者がそれを認めていることが前提となります。

このような変更を著者が編集委員会に求めるとき、責任著者（corresponding author）は編集委員会あてに著者一覧の変更の理由を提出します。

原稿が採択された後は、特別な場合にのみ、編集委員会は追加／削除／順序変更を検討します。編集委員会が著者からの要求を検討している間、論文の出版プロセスを中断します。

その他の情報

JTE の最近号を参照すれば (J-STAGE), JTE の論文のスタイルやレイアウト, 記述方法について概略を知ることができます。下記サイトをご覧ください。

<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jte/-char/ja>

利益相反

利益相反

すべての著者は、論文に不適切な影響を与える恐れのある他人または他組織との間の金銭的および個人的な関係を開示する必要があります。忘れやすい利益相反の例として、雇用関係、コンサルタント、株式の保有、名誉、専門家による有償のアドバイス、特許申請／登録、助成金／その他の資金があります。ここでは、たとえば次のように記載します。開示すべき利益相反に関する事項がない場合はその旨を記載する必要は特にありません。

例 1: X, Y, Z は本研究を実施するにあたり、(株) XXX から謝礼を受け取っている。

例 2: 本論文に関して、開示すべき利益相反に関連する事項はない。

資金提供者の役割

研究を実施したり原稿を準備したりする段階で財政的な支援を提供した人や組織はいませんか？研究の企画、データの収集・分析・解釈、レポートの執筆、原稿の投稿においてスポンサーの役割をその人または組織が担っていれば、その事実を簡潔に説明します。資金提供者がそのような関与をしなかった場合は、その旨を明記します。

査読

査読

JTE では、投稿された原稿の科学的品質を査読で評価します。

編集委員会は、投稿されたすべての原稿についてジャーナルの目的や対象範囲にふさわしいかどうかをまず評価します。次に、原稿の内容が査読にふさわしい水準にあるかどうかを評価します。水準が低いと判断すれば編集委員会はこの時点で原稿を却下し、著者に返却します。最後に原稿が、この執筆要項に照らして適切な書式で記述されているかどうかを判断します。この時点で不適切だと判断される箇所が見つかった場合、編集委員会は著者に原稿をいったん返却し、執筆要項に沿った書き直しを求めます。以上のことは、査読者に不適切な原稿の査読を依頼しないためです。

編集委員会は、ジャーナルの目的にふさわしく、査読に値する水準にあると思われる、かつ適切な記述がされていると判断された原稿を、通常、2名の独立した専門家 (Original paper, Technical paper, Invited article の場合) または1名の専門家 (Short paper の場合) の査読者に送り、原稿の科学的品質を評価します。その後、査読者の意見を参考にし、原稿の採択／却下に関する最終決定を行います。編集委員会の決定は最終的なものですので、覆ることはありません。

ブラインドレビュー

本ジャーナルは、ブラインドレビュー（blind review）方式を査読プロセスに使用しています。つまり、著者は査読者が誰なのかを知ることができません。

原稿の構成と作成

一般的事項

ワードプロセッサ

原稿の作成には、可能であれば Microsoft 社のワードプロセッサ MS-Word を使用し、docx 形式でファイルを保存します。テンプレート（ひな形）ファイルを J-STAGE サイト（<https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jte/-char/ja>）の [ダウンロード] - [投稿規定など一式] から入手できますので、それに上書きして原稿を準備します。MS-Word を利用できない場合は、PDF 形式で保存した原稿も受け付けます。ただし、原稿が採択されたあと、印刷所が原稿を要求するときに docx 形式の原稿が必要です。

テキストは 1 段組、2 行取りで作成します。レイアウトはできるだけシンプルにします。MS-Word を使用する場合は、査読者が要修正箇所を指摘しやすいように、原稿本文の各行の左端に 1 枚目から通し行番号を振ります。

句読点（和文原稿）

和文原稿の句読点には「、」と「。」を用います。

漢字・仮名遣い・英文・フォント

文章は、和文では原則として常用漢字と現代仮名遣いを用いた表記とします。また、採択後に J-STAGE 上で公開された和文論文が、将来、J-STAGE 上で外国語に自動翻訳される可能性があることを想定して和文を作文することをお勧めします。和文として多少の違和感があっても、主語を省略せずに明示するなど、明快で誤解のない文章で記述します。日本語の作文技術については『理科系の作文技術』（木下是雄，中公新書）のご一読をお願いします。

英語のつづりはアメリカ式でもイギリス式でもかまいません（例：fiber と fibre）。ただし、原稿内で統一します。日本語のローマ字表記は、ヘボン式または訓令式を原稿内で統一します。ただし企業名・出版社名など、正式に認められている表記があれば、それに従います（例：新潮社：Sintyosya → Shinchosha）。

フォントは、読み取りやすく標準的なものを使用します。お使いの OS が MS-Windows の場合、和文では潮明朝や BIZ UD 明朝 Medium など、英文では New Times Roman や Arial などをお勧めします。従来からよく使われている MS-明朝や MS-ゴシックは読み取りにくいためお勧めしません。

概要（abstract）や図説明（figure caption）・表説明（table caption）など英文箇所には日本語フォントを混入させません。ギリシャ文字や数学記号も日本語全角フォント（ α 、 β 、 Δ 、 \times 、 \pm 、 $^{\circ}\text{C}$ ）ではなく、使用している英文フォントのもの（ α 、 β 、 Δ 、 \times 、 \pm 、 $^{\circ}\text{C}$ ）を使用します。たとえば、 ΔE ではなく、 ΔE とします。これは、原稿採択後、出版される PDF ファイル等で文字化けを防ぐための事前措置です。

かつてコンピューターの機種依存文字であった①、②や㊦などの記号は UTF-8 環境では正しく表示できませんが、念のためできるだけ避け、(1)、(2)や（株）を使用することをお勧めします。

章と節

原稿は、明確に定義された番号付きの「章」に分割します。「章」の下位構造である「節」には 1.1 (1.1.1、1.1.2, ...), 1.2 などの番号を付けます。「概要」(abstract) は「章」の番号リストに含まれません。この番号付けは、内部相互参照にも使用します(例: 第 1 章で述べたように...). 「章」と「節」には短い見出しを付けることができます(例: 2.1 試料とその特性)。各見出しは個別の行に記載します。

原稿の構成要素

はじめに／序論

詳細な文献調査や結果の要約は避け、研究／報告の目的を述べ、その適切な背景を記載します。

素材と方法

本研究／報告と無関係な研究者が結果を再現できるように、研究／報告に使用した素材や方法について十分に詳細に記述します。論文などですでに公開されている方法については要約し、文献を参照することで示します。すでに公開された論文等に記載された文言をそのまま引用する場合は、引用符(「」)を使用して引用し、情報源も同時に提示します。(例: 山田ら [4]によればこの発見は「産業界にも大きな影響を及ぼす成果である」とされる。)。既存の方法に対して変更がある場合は、それについて詳細に説明します。

理論／計算

理論の章では、「はじめに／序論」ですでに扱った論文の背景を繰り返すのではなく拡張し、さらなる研究の基礎を築く項を記述してください。計算の章では、理論的基礎からの実用的な開発事項を示します。

結果

結果を明確かつ簡潔に記述します。

考察

この章は、研究／報告の結果の重要性を検討する章であり、結果を繰り返す章ではありません。多くの場合、結果と議論を併せて「結果と考察 (Results and discussion)」の章とするのが適切です。すでに公開されている文献の広範な引用やそれについての議論は避けてください。

結論

この研究／報告の主な結論は、この短い結論の章にまとめます。

付録

付録が複数ある場合は、A, B などとして本文と区別します。付録の数式には、(A.1), (B.1) など付録ごとに別の番号を付けます。図と表についても同様です。

題目ページ情報

題目

題目（タイトル）は簡潔で有益なものにします。題目は、論文データベースなどの情報検索システムでよく使用されます。可能であれば、略語や式を避けます。英語による題目も必要です。必要であれば副題をつけてもかまいませんが、できるだけ避けます。

著者名と所属

すべての著者の姓（family name）と名（given name）を明確に示し、すべての名前の表記（漢字、ローマ字つづり）が正しいことを確認します。日本人のローマ字つづりは、著者が指定するつづりとし（例：大山の場合、OYAMA, OHYAMA など）。姓がなく名だけの場合は、名だけを書きます。いずれの場合も、姓と名を明確に区別するために、姓はすべて大文字で（McKINLEY のような例外はあります。）、名は頭文字のみを大文字で記載します。

JTE では、著者の姓と名をローマ字で表記する場合、姓と名の順序は、著者の母語／文化圏の固有の表記順序で記載します。たとえば日本人の山田太郎であれば、姓→名（YAMADA Taro）の順とし、名→姓（Taro YAMADA）の順とはしません。アメリカ人の Steven Jobs であれば名→姓（Steven JOBS）の順とします。ただし、採択された論文を J-STAGE で公開するときには、J-STAGE の仕様にしたがって名→姓の順（Taro YAMADA）になります。

著者名の下に著者の所属組織とその住所（実際の活動が行われた場所）を記載します。すべての所属を、著者の名前の直後と対応する住所の前とに、小文字の上付き文字で示してください。所属組織名と住所は郵便物が届く程度に詳しく記載します。たとえば、「繊維大学」ではなく「繊維大学 工学部」とします。

責任著者

責任著者は 1 名に限り、また連絡先を明確に示します。問い合わせへの回答の責任は責任著者にあります。この連絡先は、査読から論文公開までのすべての段階や、論文公開後において論文で用いられた方法論や素材に関する問い合わせに用います。最新の電子メールアドレスと連絡先が記載されていることを責任著者が確認します。電子メールアドレスは、責任著者が現在所属する組織から異動したり退職したりした場合でも、連絡がとれるアドレスが望ましいです。

現在のまたは恒久的な住所

原稿に記載されている活動が完了した後、そのときに活動場所に滞在していた著者が活動の後に異動した場合、「現在のアドレス」または「恒久的な住所」をその著者の名前の脚注として表示します。著者が実際に活動を行った住所は、主要な住所として記載します。このような脚注には上付きのアラビア数字を使用します。

概要

簡潔で事実に基づく概要（abstract）が必要です。概要には、研究の目的、主要な結果、主要な結論を簡潔に記載します。英文で 150～200 語程度とします。途中で改行しません。

概要は、読者が論文の全体像を知るために非常に重要です。また論文データベースでは概要がデータベース化されるため、適切な英文で記述される必要があります。そのため、事前にネイティブチェックを必ず受けてください。

論文が採択され、ウェブ上で公開されるとき、概要は本文とは別に提示されることが多く、その場合でも概要としての機能を果たす必要があります。このため、概要中で参考文献を引用することは避けます。どうしても必要な場合は、その文献の完全な情報を概要中に記載します。

標準でないまたは一般的でない略語は避けます。必要な場合は、概要の最初で定義します。

概要中には、日本語フォント（全角文字）を含めません。ギリシャ文字や数学記号も全角フォント（ α , β , \times , \pm , $^{\circ}\text{C}$ ）ではなく、使用している英文フォントのもの（ α , β , \times , \pm , $^{\circ}\text{C}$ ）を使用します。

キーワード

概要の直後に、最大で5つのキーワードを英語で記載します。スペリングはアメリカ式でもイギリス式でもかまいません。ただし、原稿内で統一します。一般的な用語や複数の用語、および複数の概念（たとえば and や of を使うこと。例：Textile and textile machinery）は避けます。略語は、その研究分野でしっかりと確立された略語は使用可能ですが、控えめに使用します。各ワードの先頭の1文字のみ大文字で書きます。

謝辞

参考文献リストの前に謝辞を記載します。研究中に有益な手助けを提供した個人をここにリストします。

研究資金提供者の要求に対してコンプライアンスを促進するために、たとえば下記のような文言で資金の一覧を記載します。

例：本研究は、科学研究費補助金（No. 123456）の補助を受けた。

プロジェクトや助成金、賞の種類に関する詳細な説明を含める必要はありません。資金が、大学または研究機関が利用できるブロックグラント（使途が裁量に任された資金）またはその他のリソースからのものである場合は、資金を提供した機関または組織の名前を記載します。研究に資金が提供されていない場合は、次の文を記載することをお勧めします。

例：本研究は、公共団体、企業団体、非営利セクターなどのいかなる資金提供機関から特定の助成金を受け取っていません。

個別の項目

用語と単位

用語は、国際的に受け入れられている規則に従います。日本語の用語で複数の記載法がある場合は原稿内で統一します。たとえば電場と電界、ズリとせん断などです。単位には国際単位系（SI）を使用します。詳細については、IUPAC：Nomenclature of Organic Chemistry を参照することをお勧めします。ただし、慣用的に用いられている単位については、読者にとってより理解しやすくなると著者が判断する場合には括弧書きで併記してもかまいません。

例： 2.54 cm (= 1 inch)

例： 298 K (= 25 $^{\circ}\text{C}$)

数式

数式は、画像としてではなく編集可能なテキストとして記載します。簡単な数式の場合は通常のテキスト行内に記載し、 a/c , $(a+b)/(c+d)$ などのように、割り算の項には水平線の代わりにスラッシュ記号「/」を使用し

ます。原則として、変数はイタリック体で表示します。ネイピア数 e のべき乗は、 \exp で表せばテキスト行内に記載することができます。テキスト行から分離して表示する必要がある別立ての数式の場合、すべての数式に原稿全体を通しての連続番号を付けます。

脚注

脚注は控えめに使用してください。脚注には、原稿全体を通しての番号を付けます。

図・表・参考文献

一般事項

- ◆ 図中の文字フォントの種類を統一します。
- ◆ 次のフォントまたは類似のフォントを使用して下さい; Arial, Courier, Times New Roman, Symbol.
- ◆ 図を描くアプリケーションでは、可能であれば、使用しているフォントを埋め込みます。
- ◆ 本文中の順番に従って、図に番号を付けます。
- ◆ 出版された場合の希望の寸法に近いサイズの図を作成します。大きすぎる図は、出版時に縮小されるので見た目が変わってしまいます。
- ◆ 図を本文の最後にまとめて配置し、図番号の順に貼り付けます。
- ◆ 図をカラーで描く場合、黄色や薄緑などの薄い色は避けます。
- ◆ 色覚障害のある人のことを考慮してカラーを決めることが望ましいです。

原稿が採択された場合、別途、高解像度の個別の図の提出をお願いする場合があります。このとき、図は以下の要件に従ってください。

1. 図が Microsoft Office アプリケーション (Word, PowerPoint, Excel) で作成されている場合は、できればそのアプリケーション固有のファイル形式で保存し、提出してください。
2. Microsoft Office 以外のアプリケーションで作成した図の場合、下記のいずれかの形式に画像を変換します (線の描画、ハーフトーン、および以下に示すライン/ハーフトーンの組み合わせの解像度の要件に注意してください.)。
 - ◆ PDF: ベクター描画。使用されているすべてのフォントを埋め込みます。
 - ◆ TIFF または JPEG: カラーまたはグレースケールの写真 (ハーフトーン)。最低でも 300 dpi に保ちます。
 - ◆ TIFF または JPEG: ビットマップ (純粋な白黒ピクセル) 線画。最低でも 600 dpi に保ちます。
 - ◆ TIFF または JPEG: ビットマップのライン/ハーフトーン (カラーまたはグレースケール) の組み合わせ。最低でも 600 dpi に保ちます。

以下の画像は受け付けません。

- ◆ ディスプレイ画面での使用に最適な画像 (GIF, BMP, PICT など)。これらは通常、解像度が低く、色のセットが限られています。

- ◆ 解像度が低すぎる画像.
- ◆ 大きすぎるグラフィック画像.

図

各図に図説明（キャプション）を付けます。図説明は英語で記述し、図には付属させず、本文の最後の別のページにまとめます。図説明は、簡単なタイトルと図の説明で構成します（例：Relationship between shear rate and shear viscosity: test fluid has a shear-thinning viscosity.）。図は、プレゼンテーションソフトに貼り付けられるなど、単独で用いられることがあります。そのため、できれば本文内での説明に頼らず、図説明だけで図の説明を尽くすことをお勧めします。図は、本文の最後の別のページにまとめて記載します。本文内での表示位置に従って図に連続番号を付けます。図説明で使用されているすべての記号と略語は本文中で説明します。本文中で図に言及するときは、たとえば「Fig. 1 が示すように」とはせずに「図 1 が示すように」と記載します。

表

表は画像ではなく編集可能なテキストとして提供します。表説明は英語で記述し、表には付属させず、本文の最後の別のページにまとめます。表説明（キャプション）は英語で記述し、本文の最後の別のページにまとめます。本文内での表示位置に従って表に連続番号を付けます。本文中で表に言及するときは、たとえば「Table 1 が示すように」とはせずに「表 1 が示すように」とします。

図表の著作権

図表を文献から引用する場合は、その図表の著作権に配慮し、一般に認められる範囲で引用します。引用するにあたっては著作権上、問題がないことを著者の責任で確認します。

参考文献

本文中と概要中での引用

参考文献は、一般に入手できるものを引用します。入手が困難なものとして、私信や個人所有データ、一般に公開されていない学位論文は引用を避けます。本文中で引用されているすべての参考文献が参考文献リストに存在していることを確認します。逆に、参考文献リストであげられている文献がすべて本文中で引用されていることも確認します。概要（abstract）中で参考文献を引用することはできるだけ避けます。引用されている参考文献は、完全な情報をその概要中ですべて記載する必要があります。概要は本文から独立して掲載されることが多く、参考文献リストを参照できないからです。

未発表の結果や個人的に入手したデータは参考文献として引用することは推奨されません。未公開で「印刷中」（in press）の文献を引用する場合、投稿時点でその文献が採択（accept）されているものに限り、

ウェブ情報の参照

ウェブ情報は、DOI を除いて参照できません。理由は、将来にわたって閲覧が保証されないからです。

参考文献の記述スタイル

文献の引用は引用箇所に [] を付して番号を記入します。文献は、以下に示す形式に沿ってローマ字で記載します。DOI が付与された文献については、その URL を最後に記載します。雑誌の場合、雑誌名は省略形を用

いずに書きます。たとえば“Textile Research Journal”は，“Text Res J”とせずそのまま書きます。日本語で書かれた文献の場合は、ページ番号のあとに“(in Japanese)”を付加します。論文の早期公開など、未刊行ではあるが出版が決まっている文献の場合は、最後に“(in press)”を付加します。英単語で省略を意味するピリオド“.”(例：Yamada et al.)は編集時に見落としやすいので原則として使用せず、「開始頁－終了頁」のあとのピリオドや URL で必要なピリオドに限って使用します。

日本国内の機関が発行する雑誌名のローマ字表記は、その雑誌が J-Stage 等でオンライン公開されている場合、大文字・小文字表記も含めてそこで用いられている表記に従います。たとえば、『繊維機械学会誌』は Sen'i Kikai Gakkaishi であり、Sen-i Kikai Gakkaishi ではありません。

文献の著者が 4 名以上の場合は先頭の 3 名までを記載し、それ以降は“et al”とします。

雑誌を引用する場合

著者名（西暦の発行年）雑誌名，巻数，開始頁－終了頁．DOI

Yukawa H (2005) Sen'i Kikai Gakkaishi (Journal of Textile Machinery Society of Japan), **50**, T110-T115 (in Japanese).

<https://doi.org/10.4188/jte.50.T115>

[1] Johnson R, William DE, Kim K, et al (2005) The Journal of Textile Institute, **80**, 177-189.

<https://doi.org/10.4188/jte.60.212>

[2] Yamada S (2018) Journal of Textile Engineering, **63**, 78-89 (in Japanese). <https://doi.org/10.4188/jte.63.111>

[3] Takano Y (2020) The Journal of Textile Institute (in press)

書籍を引用する場合

著者名（西暦の発行年）”書名”，頁または章，発行所名，発行所所在地

[4] Kitayama S (1998) "Sen'i no soshiki to kagaku", Chap 1, Shikisai Kagakusha, Tokyo (in Japanese)

[5] Yamada T (2020) "Hajimete no sen'i kikai" ("Introduction to Textile Machinery"), pp20-25, Sen'i Kikai Shuppan, Osaka (in Japanese)

[6] Alexander LF, Doi JB (1998) "Polymer Science", pp135-140, John Wiley and Sons, New York

[7] Manchester J, Osaka T (1998) "Computational Fluid Dynamics", p123, John Wiley and Sons, New York

[4]と[5]のように日本語で書かれた書籍の場合，書籍名をそのままローマ字表記して書きます。[6]のように英語書籍名が別途ある場合は，その後続けて括弧書きでそれを付加します。いずれの場合も，和文表題を別途，仮名漢字で References に続けて次のように記載します。

文献（和文表記）

[4] 北山修一 (1998) “繊維の組織と科学”，第 1 章，色彩科学社，東京

[5] 山田太郎 (2020) “はじめての繊維機械”，pp20-25，繊維機械出版，大阪

著者が 4 名以上の場合は，先頭の 3 名までを記載し，それ以降は“ほか”とします（例：北山修一，山田太郎，繊維花子ほか）

報告書や白書を引用する場合

- [8] Ministry of Economy, Trade and Industry (2017) "Annual Report on the Japanese Economy and Public Finance 2017", Chap 2, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)
- [9] Ifuku no juyou chousa kenkyuukai (2017) "Ifuku no juyou ni kansuru keikou no chousa houkokusho", p123, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)

日本語で書かれた発行物であっても英語表題がある場合（例：国の機関が発行する白書など）は、それを記載します。[10]のように英語表題がない場合はそのままローマ字表記とし、和文表記を別途、仮名漢字で References に続けて次のように記載します。

文献（和文表記）

- [10] 衣服の需要調査研究会（2017）“衣服の需要に関する傾向の調査報告書”， p123, 経済産業省

特許関連資料を引用する場合

特許公報：

- [11] Nishi Kikai Co Ltd (2010) Japanese Patent 19530313 (in Japanese)

公開特許公報：

- [12] Shinshu Textile Co Ltd (2011) Japanese Patent Application 2011-195671 (in Japanese)

原稿採択後

校正

原稿の採択が編集委員会で決定されたあと、刊行担当委員が著者に対して最終原稿の提出を求めます。それをもとに JTE の書式に組版された校正用 PDF ファイルを印刷会社で作成し、著者に送付します。校正のすべての手順は、著者と印刷会社との間の電子メールで行います。論文を迅速に出版するため、著者は 2 営業日以内に校正刷りを提出してください。編集委員会は、著者の論文を迅速かつ正確に出版するための努力を惜しみません。

論文の本質とは無関係な修正は、編集委員会が著者の同意を得ずに行います。たとえば次のような修正を原稿に施します。

- ◆ 「てにをは」の修正（例：「大阪を行了きました」→「大阪に行きました」）
- ◆ 用語・用字の統一（例：「ずり」と「せん断」, "fiber"と"fibres"）
- ◆ 英単語の省略を意味するピリオドの後の空白の追加／削除（例：Fig.1 の Fig. と 1 との間に空白を追加）
- ◆ 量を表す数値と単位との間の空白の追加／削除（例：「50%」を「50 %」へ修正）
- ◆ 変数や量を表す英文字のイタリック化（例：「温度 T」の「T」のイタリック化）
- ◆ References の書式の修正や DOI の追加
- ◆ 「Fig. 1 が示すように」→「図 1 が示すように」

掲載が承認された論文に対して重要な変更が発生した場合は、編集委員会の許可を得てから、この段階で検討します。

すべての修正が1回の校正で確実に完遂されるようにすることが迅速な出版のために重要です。これ以降の修正が最終版に反映されることは保証できません。校正刷りを刊行担当者に返信する前に注意深く確認します。校正は著者の責任です。

採択された論文が掲載される巻・号や号内での掲載順序については編集委員会に一任してください。原則として、論文の種類別には招待記事 (invited article)・原著論文 (original paper)・短報 (short paper)・技術報告 (technical paper) の順に掲載し、また英文論文・和文論文の順に、それぞれ採択日 (acceptされた日) の順に掲載します。論文が早期公開された順によっては掲載巻・号が前後する場合がありますことをご了承ください。

早期公開制度

著者による校正が終了した後、J-STAGE においてできるだけ早急に論文を早期公開 (Advance online publication) します。その後、編集委員会で決定した巻・号に順次、掲載します。これを本公開と呼びます。このとき、早期公開論文を本公開する順序については編集委員会にご一任ください。

出版後の訂正 (Errata)

出版後に論文の本質にかかわる重要な訂正が見つかった場合、編集委員会は訂正案内 (Errata) を次号以降に掲載します。Errata を発出するかどうかは編集委員会が決定します。ただし、論文の本質に影響を及ぼさないケアレスミスに相当する程度の微細な誤りについては Errata を出しません。

論文によっては、続報に該当する論文において、初報における誤植等の修正を著者自らが記載する場合があります。この場合でも、編集委員会が必要と認めた場合 (とくに初報が JTE に掲載された論文の場合)、著者の同意を得ずに Errata を発出する場合があります。

論文の掲載料

JTE では論文掲載料 (article processing charge, APC) が必要です。掲載料は、原稿の種別を問わず、著者最終原稿を A4 サイズに組版したときのページ数に応じて下記のとおり決定されます。掲載料には、著者に進呈する PDF ファイルの料金を含みます。カラー料金は無料です。

掲載料 (税別) 2024 年 1 月 1 日現在

ページ数	1-4	5	6	7	8	9	10
会員価格 (円)	35,000	45,000	50,000	55,000	65,000	75,000	85,000
非会員価格 (円)	45,000	55,000	60,000	65,000	75,000	85,000	95,000

11 ページ以上の論文の場合には、10 ページの料金に、1 ページ増すごとに 10,000 円を加算します。

掲載料には会員価格と非会員価格とがあります。会員価格は日本繊維機械学会の会員 (法人会員の社員など構成員も含む) に適用します。非会員には非会員価格を適用します。著者の中にひとりでも会員がいる場合は会員価格を適用します。いずれの価格を適用するかは、原稿が採択 (accept) されたあと、出版される時点で編集委員会が判断します。

紙の印刷物 (reprint) をご希望の場合は、学会事務局までお問い合わせください。

会員価格と非会員価格との価格差で本学会の年会費（たとえば個人の正会員 8,000 円，2024 年 1 月現在）をまかなうことができます。これを機会に，日本繊維機械学会に入会されることをお勧めします。入会については，以下のウェブページにアクセスして情報を得てください。

https://tmsj.or.jp/join/#join_fee

著作権（著作権）

原稿の著作権（著作権）は，*JTE* に掲載されたあとは（一社）日本繊維機械学会に帰属します。ただし，J-STAGE で刊行後，著者が保有する著者最終稿（掲載が決定した原稿のうち査読を終了した最終段階のもの）については，出典を表示することで著者が属する機関等（機関リポジトリも含む）のウェブサイトでの公開を認めます。詳しくは学協会著作権ポリシーデータベースのウェブサイトの本ジャーナルに関するページを参照してください。

オープンアクセスリポジトリ推進協会（JPCOAR）

<https://jpcoar.repo.nii.ac.jp/>

学協会著作権ポリシーデータベース（Google スプレッドシート）

https://docs.google.com/spreadsheets/d/1hGf0ulOt--guIU4eCgylz_GYjjo1xtMPpCDht6sIHA/edit#gid=0

J-STAGE での刊行について

採択（accept）された論文は J-STAGE においてフリーアクセス方式で刊行されます。どなたでも自由に閲覧できます。

Journal of Textile Engineering: <https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jte/-char/ja>



問い合わせ先

一般社団法人 日本繊維機械学会 事務局

〒550-0004 大阪市西区靱本町 1-8-4 大阪科学技術センタービル 6 階

E-mail: [info\[at\]tmsj.or.jp](mailto:info[at]tmsj.or.jp), TEL: 06-6443-4691, FAX: 06-6443-4694

Website: <http://tmsj.or.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/tmsj1948/>

改訂履歴

2023.12.22 全面改訂

2024.4.22 一部修正

原稿見本

以下、フォントサイズはすべて 11 pt

[題目]

ディスク型フリクション仮撚りにおける糸の走行経路

[題目 (英文)]

Yarn Path in Friction False Twisting

[著者名]

大阪 太郎 (代表著者) ^{a,*}

John MANCHESTER ^b

[著者名 (英文)]

OSAKA Taro ^{a,*}

John MANCHESTER ^b

[所属と連絡先]

^a 浪速大学工学部, 565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-1

^b 近江大学教育学部, 520-0826 滋賀県大津市平津 2-5-1

[所属と連絡先 (英文)]

^a Department of Mechanical Engineering, Naniwa University, 2-1 Yamadaoka, Suita, Osaka 565-0871, Japan

^b Faculty of Education, Omi University, 2-5-1 Hiratsu, Otsu, Shiga 520-0862, Japan

[代表著者メール連絡先]

E-mail: taro@naniwa-u.ac.jp

[新しい連絡先] 原稿採択時までに所属が変更になった場合

真田大学繊維学部, 386-8567 上田市常田 3-15-1

E-mail: taro@fiber.sanada-u.ac.jp

1 [Abstract] (英文 150~200 語程度. 途中で改行しない. 2 行取り)

2

3

4

5


6

7

8 [Keywords] (5 個以内の英語キーワード)

9 Sound absorption; Resonance absorption; Carpet backing; Mass of panel

10



行番号を付ける.

以下 2 行取り

1. まえがき

流体中における繊維の運動は紡績や繊維強化複合材料の成形などの工程で見られる重要な現象である [1]. これらの工程では, 空気や高分子融液などの流れの中にある繊維の運動を知り, それをうまくコントロールすることが製品の品質や生産性を向上させる上で必要となる [2- 4].

2. 基礎式

2.1 流れ場の基礎式

非圧縮性のニュートン流体の流れ場を求める方程式は連続の式と Navier-Stokes 方程式である.

$$\nabla \cdot u_i = 0 \quad (1)$$

$$\rho \frac{Du_i}{Dt} = -\nabla p + \mu \Delta u_i + F_i \quad (2)$$

ただし, u_i は流速, ρ は流体の密度, t は時間, p は等方圧力, μ は流体の粘度である. 各時刻において繊維から受ける外力 F_i が分かると(1), (2)式から次の時刻における流れ場が計算できる [2, 3, 5-8]. また, 図 1 および表 1 に示すように,

33 References

34

35 [1] Kitayama S (1998) "Sen-i no soshiki to kagaku", Chap 1, Shikisai Kagakusha, Tokyo (in Japanese)

36

37 → 題目等に英語表記のない文献の場合、仮名漢字表記で記載したリストを別途最後に追加する。

38

39 [2] Manchester J, Osaka T (1998) "Computational Fluid Dynamics", p123, John Willey Sons, New York

40 [3] Shoshani YZ, Wilding MA (2002) Textile Research Journal, **61**, 736–744. <https://doi.org/10.4188/trj.65.73>

41 → ジャーナル名は、Text Res J のような省略形は使用しない。

42 → DOI が付与されている場合はそれを記載する。

43 [4] Naitoh T (1994) Journal of Textile Machinery Society of Japan, **43**, T414–T419.

44 <https://doi.org/10.4188/jte.47.53>

45 [5] Osaka T (1998) Journal of Textile Engineering, **48**, 201–216 (in Japanese).

46 <https://doi.org/10.4188/jte.65.79>

47 → 日本語で書かれた文献の場合、(in Japanese)を記載する。

48 [6] Nishi Kikai Co, Ltd (2010) Japansese Patent 19530313

49

50 [7] Ministry of Economy, Trade and Industry (2017) "Annual Report on the Japanese Economy and Public

51 Finance 2017", Chapter 2, Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)

52 [8] Ifuku no juyou chousa kenkyuukai (2017) "Ifukuno juyou ni kansuru keikou no chousa houkokusho", p123,

53 Ministry of Economy, Trade and Industry, Tokyo (in Japanese)

54

55 文献（和文表記）

56

57 [1] 北山修一 (1998) “色彩の組織と科学”, 第 1 章, 色彩科学社, 東京

58 [8] 衣服の需要調査研究会 (2017) “衣服の需要に関する傾向の調査報告書”, p123, 経済産業省

59

60

61 Figure captions

62

63 Fig. 1 Schematic diagram of a circular contraction and Observation planes.

64

65 Fig. 2

66

67 Table captions

68

69 Table 1 Flow visualization conditions of the 0.2 and 0.5 wt% PAA solutions.

70 Table 2

71

72

73 Figures

74

75

76

77

78

79

80

81

82

83

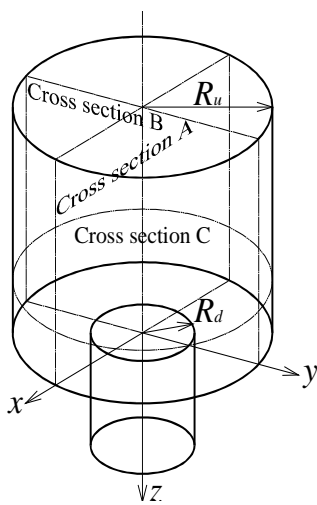
84

85

86

87 Fig. 1

88



著作権譲渡承諾書

(一社)日本繊維機械学会ジャーナル編集委員会殿

論文題名 (和文)

(英文)

本論文を投稿するにあたり,

- (1) 掲載後の著作権を委譲します.
- (2) 本投稿論文は未刊行のオリジナルです.
- (3) 掲載後の他からのクレーム (無断転載, 無断引用, その他) に対する一切の責任は著者が負います.

住所

氏名

(著者代表者の自筆サイン)

年 月 日